美作市立美作第一小学校

学校だより

令和6年5月31日

ふるさとに誇りをもち 心豊かで たくましく生きる児童の育成
～笑顔いっぱい 夢いっぱい ともに学び ともに歩む～

文責 学校長 延東省典

多くの方に支えていただいています。お力添えありがとうございます。

本校の取組の１つが「社会で学ぶ、社会に学ぶ」です。社会とのつながりを大切にし、保護者や地域の方の力をしっかり借り、そして、その学びを利活用して、社会に積極的に働きかけていきたいと思います。

１６日には６年生が市議会訪問し、市長室にも案内していただきました。

１７日には、４年生が「まんぷ」を訪れ、用水を流した「まんぷ」の中に実際に入らせていただき、先人達の知恵と努力を心と体で学びました。

２２日には、見守りパトロール隊の出発式がおこなわれ、こんなにたくさんの方々が見守ってくださっているのだと心強く感じると同時に、子どもたちにも改めて「自分の命は自分で守る」ことの大切さを伝えました。

２６日には、第１回環境整備をPTA執行部の方々を中心に行っていただき、保護者・地域ボランティア・職員・子どもたちが力を合わせて取り組みました。

２９日には３年生が海田の「茶下山」を訪ね、茶師の下山桂次郎さんから、多くの事を教えていただきました。子どもたちが熱心にメモを取りながら学ぶ姿がとても印象的でした。

学習というと「国語」、「算数」・・・いわゆる「読み・書き・そろばん」を思いがちですが、子どもたちにとって、経験ほど必要不可欠な学びはありません。

たくさんの方に愛され、見守られ、教えていただいた経験は、子どもたちにとってかけがえのない財産となります。これからも、より一層社会とのつながりを深めていきたいと考えています。

クロームブックの活用を推進します

昨日、オンライン研修会という形式で、持ち帰りの実施にともなう主旨説明をさせていただきました。

様々なご意見やお考えがあることは承知しています。しかし、子どもたちが生きる未来の社会は、私たちが思うよりもっと速く、そしてもっと大きく変化します。現在ある仕事の少なくとも半数が消え、新しい仕事に変わるとも言われています。

クロームブックの持ち帰りは、決して PC を速く上手に使うためのスキルを磨くためではありません。事実お持ちのスマホでも音声入力ができ、キーボードを打つ必要すらなくなってきています。通訳すらしてくれる時代です。記憶や計算、いわゆる作業的な内容は AI 等を活用し、私たちにはより発想力や想像力が求められるのです。

何を検索すればいいのか分からなければ音声入力も役に立ちません。コミュニケーション力がなければ通訳システムも無用の長物になってしまうということです。

クロームブックは道具です。道具は正しい使い方ができなければ、時に危険なものとなってしまいます。危ないものは子どもから遠ざけてあげたいのが親心でしょう。しかし、今だからこそ許される失敗があります。失敗したときには、子どもと一緒に考え、一緒に解決策を導き出してあげてください。それができるのも今しかありません。

子どもが自らやりたいと思うことや調べてみたいと思うことを創造的に、そして実際の社会とつながり、専門家に質問したり、連絡先を調べ、電話をかけてみたりするなど、自ら興味関心があることを主体的に学ぶことを助けてくれる道具なのです。学年をさかのぼって、自分が苦手なところの学習をやり直すことだってできます。

美作第一小学校のめざす児童像

① 考えてみるぞう
② いっしょにやるぞう
③ やってみるぞう

これは、美作第一小学校がめざす姿そのものです。職員一同、力を合わせ取り組んでいます。

保護者の皆様にも、学校と思いを同じくし、子どもたちの伴走者、そして支援者として、お力添えをいただきますようお願いいたします。